

# 11. 防犯組織の運営と課題解決

## 1 参照テキスト項目

8. 地域の特性と防犯対策（テキスト p.30：研修指導者用解説書 p.28）

## 3 防犯まちづくりの基本的な手法

### ■人の目の確保（監視性の確保）

多くの「人の目」（視線）を自然な形で確保し、犯罪企図者に「犯罪行為を行えば、第三者に目撃されるかもしれない」と感じさせることにより犯罪抑止を図る。

### ■犯罪企図者の接近の防止（接近の制御）

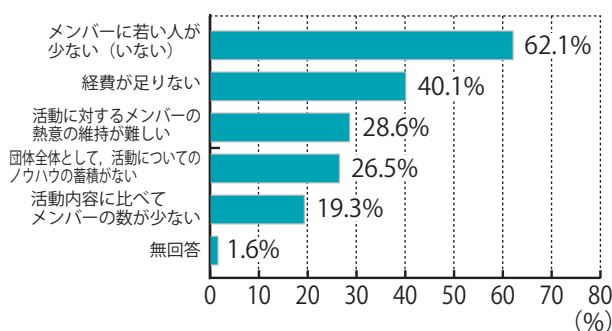
犯罪企図者の侵入経路をなくし、被害対象者（物）に接近することを妨げることにより、犯罪の機会を減少させる。

### ■地域の共同意識の向上（領域性の強化）

防犯まちづくりを行う地区に対し、その住民等が「我がまち意識」を持ち、コミュニティの形成、環境の維持管理、防犯活動の活性化等を通じて犯罪抑

## 2 団体の運営上での不安の内容について

平成16年度警察白書「防犯ボランティア団体に対するアンケート調査」（警察庁）



## 11 防犯組織の運営と課題解決

### 1 地域環境などによる課題

防犯組織の運営には、さまざまな問題点や課題があります。それは、中心市街地や新興住宅地、農山村地などのまちの条件や特徴によって、また、活動の初期や継続期などによって異なります。

たとえば、中心市街地では自分たちのまちは良く知っているつもりでも防犯の視点でまちを見たことがない人が多く、新興住宅地では地域住民の交流が少なく顔見知りが少ないので、防犯はまちづくりであるとの認識が薄くなります。農山村地では、犯罪が少ないため、具体的にどのような防犯活動をすれば良いかわからない、また、防犯活動の効果がわからないといった問題点があります。

また、活動を継続するにあたっては、参加者が固定化する、若いメンバーが集まらない、積極的に活動を行う住民が少ない、活動がマンネリ化してパトロールするのみになってしまう、関係機関や団体等からの情報が不足している、などの課題・問題点が挙げられます。

2

### 課題・問題点

- ・積極的な参加者がいない
- ・情報の不足
- ・参加者の固定化
- ・活動のマンネリ化 など

### 解決策

- ・地域行事を通じた交流
- ・関係機関との連携
- ・多くの人が参加できる活動を推進
- ・防犯以外の活動の設定 など

解決策に悩んだら？

- ・定期的に参加者が集まる機会を作り意見交換を行う。
- ・他の団体と連携を図り、お互いの情報共有する。

問題点を把握し、解決策を立てていこう

止を図る。

(出典：警察庁自主防犯ボランティア支援サイト

<http://www.npa.go.jp/safetylife/seianki55/index.html>)

## 4 参照テキスト項目

### 13. 防犯活動の推進 (テキスト p.42：研修指導者用解説書 p.40)

規準表 (51b) 防犯活動に参加する人材を育成することができる。

(54a) 防犯活動に対して積極的に取り組むことができる。

- ねらい
- ① 防犯活動の人員の確保ができる。
  - ② 地域での様々な行事などを通して防犯活動の人材を集めることができる。
  - ③ 後継者の育成について計画的に取り組むことができる。
  - ④ 安全教育以外にも地域づくりや街づくり、環境改善などの活動に積極的に参加することができる。

11

3

「防犯」は「まちづくり」

4

防犯の基本は、犯罪が起きにくい環境をつくることであり、そのためには、地域住民が顔見知りになることや地域をきれいな整然とした環境に整えることが重要です。地域住民一人ひとりが「防犯」は「まちづくり」であることを認識し、防犯活動を継続していくことが大切です。

さまざまな課題や問題点を解決し、活動を長続きさせるためには、多くの住民が参加できる活動内容を設定する、無理のない手段や方法で実施する、活動重点や活動計画を定め、目的や内容等については住民相互で意思統一を行う、拠点を立てて活動しやすい環境をつくる、リーダーの防犯活動の知識が豊富で積極的である、関係機関・団体と緊密な連携を図る、といったことが重要であると考えられます。

また、地域の行事を積極的にPRし、住民同士がふれあう機会を多くつくること、その行事を通してさまざまな世代間の交流を密にし、次世代のリーダーを育成することも、活動を継続し活発にするために大変重要なことといえます。

5

 **ビデオ教材** (ビデオ→ 防犯組織の運営と課題解決)

※ビデオを見て、問題点の整理方法と解決策をまとめてみましょう。

### Column

若い世代の参加が少ない、活動を引き継いでくれる人がいない、これは多くの地域が共通して抱えている問題です。子どもを持つ親の世代は働き盛りでもあり、見守り活動やパトロールに参加しにくい状況にあります。まずは活動に対する理解を求め、容易に参加できる活動を推進していく必要があるでしょう。

39

## 5 自主防犯ボランティア Q&A

### ●防犯ボランティア団体の活動拠点は必要ですか？

活動拠点があれば、自主防犯活動を行う上での集合場所、会議や活動準備の場所となり、構成員が集まりやすく活動が促進されます。また、団体の活動が認知されやすく、地域住民の協力や活動への参加が期待されるほか、地域住民や警察官の立ち寄りにより、防犯に関する意見交換の場所として活用できます。

活動拠点としては、自治会集会所、商店街の空き店舗、公民館、消防団の拠点等が考えられます。

### ●活動を長続きさせる方法がありますか？

活動が長続きし、活発な活動を行っている団体の例を見ると、

- ・無理のない手段・方法で実施する。
  - ・活動の目的、内容等については住民相互で意思統一を行う。
  - ・活動重点、活動計画等を定めている。
  - ・多くの住民が参加できる活動内容を設定する。
  - ・リーダーの自主防犯活動の知識が豊富で、積極的である。
  - ・拠点を設けて活動しやすい環境づくりを行う。
  - ・関係機関・団体と緊密な連携を図る。
- といったことが考えられます。

(出典：警察庁自主防犯ボランティア支援サイト

<http://www.npa.go.jp/safetylife/seianki55/index.html>)